

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772800470		
法人名	株式会社 太郎		
事業所名	グループホーム ひよりの里 (桜通り)		
所在地	福島県西白河郡西郷村大字小田倉字大平103-7		
自己評価作成日	令和元年11月23日	評価結果市町村受理日	令和2年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年1月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とスタッフが協力し合いながら生活しています。食事の盛りつけや家事手伝い、掃除などをさせて頂いています。四季折々に毎月工夫した、また利用者様からの希望、要望を取り入れた行事を行い、一人ひとりが楽しんで笑顔が引き出せるよう支援しています。また、スタッフは利用者様一人ひとりの名前を呼び元気に心のこもった挨拶を行い、笑顔と元気を届けています。遠方の家族の方もおりなかなか面会に来れないご家族様もいるので、毎月利用者様の生活状況が良く分かるように、ひよりだよりには全利用者様の写真を掲載し、手紙を郵送しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 日頃から利用者の意見や要望等を取り入れ、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。好きな歌番組を録画して全員で見たり、手芸等の好きな利用者は編み物を楽しんだり、毎日の入浴を楽しんだり、居室は以前の生活習慣に近付けるよう配慮している。  
 2. 職員間のコミュニケーションがよく、連携して利用者に寄り添いながら、明るく笑顔をもって接しており、利用者は落ち着いて穏やかに過ごしている。  
 3. 毎日、利用者に手伝ってもらい清掃を行っており、事業所内は、すみずみまで清掃が行き届いた過ごしやすい環境となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より一環した理念を掲げ、事務室と廊下に掲示し、出勤時には毎日唱和し常に意識の中において日々の支援を行っている。	地域密着型サービスの意義を反映した理念を作成し、事務室や各ユニットの廊下に掲示してあり、誰でも読むことが出来るよう大きな文字で書かれている。毎朝、申し送りの際に唱和する等、職員間で理念を共有しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中での挨拶や会話、また近隣の方が自宅で実った野菜を頂いたり、交流を図っている。また一大イベントの納涼祭には近隣の方も含め約150名程の参加があり、楽しまれている。	自治会に加入し、地域のサロンに参加したり、散歩の際に近隣の人と挨拶を交わしている。また、事業所の納涼祭では、地域から大勢の訪問がある。小・中学生の福祉体験・高校生の産業現場実習を受入、読み聞かせや吹奏楽ボランティアの訪問もあり、積極的に地域交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の職場体験や中学、高校の産業現場実習を受け入れ、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し問題点や改善点に対しメンバーから意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は定期的開催され、事業所から状況報告(現状報告、事業所行事、外部評価等)を行い、委員との意見交換がなされ、それらを事業所運営とサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当者とはこまめに連絡を取り、相談やサービスに対して意見を頂いたり、毎月のホームだよりを届ける際に情報交換を行っている。	事業所からは利用者の介護保険の更新手続きや事故報告をしたり、不明点等は相談・確認をしながら行っている。また、行政担当者へ事業所の空き情報の報告をしたり、運営推進会議を通して運営状況やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止担当のスタッフが各ユニットにおり、会議時に不明な点や改善点を情報共有し、拘束なしのケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケア・施錠をしない暮らしの大切さを学ぶため、事業内勉強会を実施し身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。日中、玄関の施錠はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や外部研修で学んだことをスタッフ間で話し合う機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	会議での勉強会を通し知識を深め、今後制度を必要とする利用者が出てきた場合に活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書と契約書を読み上げ、疑問点や不安な点があった場合は、納得いくよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望はスタッフ全員で把握し、会議で情報を開示し対応を検討し、運営に反映している。	日常的な関わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、家族からは家族来訪時や電話連絡時に意見や要望を聞き、出された意見や要望を検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個別面談を定期的に行い、職員の意見や提案を運営に役立てている。	日常業務、職員会議や個別面談の中で意見等を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所単位で食事会の開催、スタッフの改善提案にはポイント制を導入し、奨励金を出している。また残業なし、有給休暇の取得など働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修参加を促し、内外の研修参加を実践している。また研修報告書により情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交換研修や外部研修などでの情報を得ることで、サービスの質向上への取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族より不安、要望、希望などを確認し対応を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で、ご家族の不安や要望を伺い、安心して入居出来るよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族との話し合いの中で、何が今必要なのかを探り、即対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が人生経験豊富なことから、その人が得意とする分野での相談をしたり、教えて頂いたりコミュニケーションをとる中で、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係が良好に保てるよう、ご家族と相談しながら、その人らしい暮らしを支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は基本的にいつでも出来、面会時は居室でゆっくりプライベートの配慮に努めている。また時には馴染みの場所にスタッフとドライブに行くなど等の支援を行っている。	家族や知人の訪問を受けた時は、お茶を出し、ゆっくり過ごしてもらおうよう配慮し、馴染みの人にまた来てもらえるよう支援している。また、家族の協力で、法事や墓参りに出かけ、外泊する機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が良好とは言えない方向士の座席に配慮したり、また気が合う方向士で居室での会話などが出来るよう声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先や他施設への面会を行い、要望があれば相談に応じており、退居後もご家族から野菜を頂くことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを取りながら、本人の望ましい暮らしや意向を把握し、情報共有した上で、できる限り本人本位の生活支援を検討している。	日々の関わりの中でコミュニケーションを図りながら、その日の気分や表情・行動・仕草から暮らしへの意向や思いの把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族からの情報も得て職員間で検討し利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から提供されるバックグラウンドや、本人との会話の中で生活環境などの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしの流れ、身体機能などの現状を、スタッフ間の申し送りや気づきから把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの希望、要望はもちろん、スタッフ全体からの意見、提案を元に、今必要とされる介護計画を作成している。	利用者の心身状態や利用者・家族の意向を踏まえ全職員で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。また、状態に変化があった場合には家族・職員等の意見や改善案を話し合い計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々のケア実践や気づきなどを記録し、申し送りで情報を伝え合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、その時に必要とされるサービスを考え、柔軟に対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院を利用したり、散歩時にはすれ違う人たちとの挨拶を行っている。地域との相互行事参加をしたり、近隣の方に花や野菜を頂くなど、関わりを深めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族がかかりつけ医の受診を希望した場合は、その医師と連携を取りながら、納得のいく医療を受けられるよう支援している。	契約時に利用者・家族の希望する医療機関を確認している。全員が事業所の協力医を選び、往診を受けている。通院は家族対応としているが、家族の都合で利用者の殆どが、事業所看護師が同行し受診支援をしている。受診結果は電話等で家族に報告し共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の細かい変化は気づき次第看護師に伝え指示を仰ぎ、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、スタッフや看護師がご家族と共に付添い、介護サマリーはもちろん、これまでの経緯を詳しく伝えている。退院については医師の判断に委ねているが、出来るだけスタッフが面会をし、利用者が安心できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、入居手続きの際に行っている。ご家族、医師、看護師との話し合いで終末ケアの方針を共有している。	入居時に事業所の「重度化対応・終末期対応指針」で、事業所で出来る対応を説明し、意向を確認しながら利用者・家族の同意を得ている。また、重度化・終末期の対応は、利用者の状態変化の都度、意向確認をしながら、医師・家族・事業所が方針を共有し看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署職員の方による訓練で学んでいる。また、マニュアルを作成しスタッフがいつでも目を通し、実践に繋げるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時訓練は毎月実施し、地震時、風害時の避難訓練は3ヶ月に1度実施し、避難方法と手順を確認している。	居室入口には、介助度に応じた目印を設け、避難終了後は取り外して避難の有無が判断できるよう工夫しており、火災・地震・風害等の避難訓練(日中想定)を毎月、ユニットごとに実施している。また、年1回消防署立会の避難訓練を実施している。非常用食料等備蓄品は3日分準備している。地域住民等による協力体制は整備されていない。	職員数が少ない夜間を想定した各種避難訓練を数多く実施し、実体験を積んで欲しい。また、運営推進会議開催時に一緒に訓練する等地域の方の理解と協力が得られる体制づくりをして欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の心を傷つけないような優しい声掛けを心がけている。また、挨拶は利用者の名前を呼んで元気に笑顔で挨拶するよう全スタッフが心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りや自尊心を損ねない言葉掛けや対応を徹底している。また、対応に当たっては、常に「笑顔」を絶やさない支援を心掛けている。書類は鍵付キャビネットや書庫に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～して下さい」ではなく「～しますか」「～してもらっていいですか」と自己決定が出来るような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望を尊重し、その人の生活の流れに合わせた支援を心がけている。ただ、共同生活と言うことから、都合を優先してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者は毎日ひげそりを行い、女性利用者は外出時は化粧をして出かけている。また、起床時には整髪、整容を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	常に家事の手伝いをお願いし、日常生活の会話に中から好きな食べ物を把握し、行事食や誕生日のメニューに取り入れている。	日頃の関わりの中から利用者の好みを把握し、献立に反映している。利用者にも食材の皮むきや下処理・下膳・片付け等に参加して頂き、バーベキュー・鍋物・ラーメン・おやつバイキング等を実施し、外食に出かける等、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を考え、バランスの取れた食事が提供できるよう努めている。水分量は摂取する毎にチェックし、不足しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをし、見守りや一部介助にて口腔ケアを実施している。毎日の日課となっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインを察知し、その都度トイレ誘導しているが、食後に排泄時間を決めてしまいがちである。ほぼ2時間に1回の割合で誘導する方もいる。	排泄記録や利用者のサイン(仕草・行動等)から排泄パターンを把握し、利用者の自尊心や羞恥心に配慮したトイレ誘導を行い、自立排泄に向けた支援を行っている。また、定時排泄誘導により、トイレでの排泄を継続している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や運動で身体を動かし、10時には牛乳を提供している。食物繊維やを多く含む食べ物の提供や腹部マッサージを行い改善されない場合は、看護師と相談して下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しい時間となるよう、一緒に歌を歌ったり会話をしている。その日その時の体調や気分を把握し、入浴時間の希望に沿うようにしている。	入浴時間は午後としているが、利用者の意向を反映した入浴が出来るよう支援している。会話や歌を口ずさんだり、ゆず湯や入浴剤で入浴を楽しんで頂くよう取り組んでいる。希望により毎日入浴される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や身体状況にわせて、自由に休息出来るようにしている。意思表示が困難な方には、その時の状態を察して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師や薬剤師からの情報や処方箋から、薬に関する内容はある程度理解できているが、更に詳しい知識を得るために看護師の協力を得ながら、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力や生活歴を活かし、花を育てたり、物を創作したり、畑仕事をしたりと張り合いのある暮らしが送れるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を重視し、懐かしい場所にスタッフと出かけたり、ご家族と相談し自宅での時間を過ごせるよう働きかけている。	事業所の中庭や近隣公園の散歩・買い物・理美容・外食・時節に応じた景勝地へのドライブ等を実施し、戸外に出掛けられるよう支援している。また、家族の協力で温泉や自宅に戻る人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力に応じ、小遣いを所持するなど好きなことに使えるようにしている。その中でご家族と相談し、1月の小遣いを決めて、個々でのやりくりが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは一部の利用者ではあるが盛んに行っている。また、電話の希望があった場合はスタッフが支援し、ご家族との会話を楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関は季節の花を常に飾っている。また、季節のイベントや行事ごとに装飾を変更し、楽しめるよう努めている。冬場のイルミネーションは部屋からも見ることが出来、感動されている。	ホールから、近隣公園や並木道の風景が望める。壁面には行事写真を飾り、畳・テーブルコーナーがあり、玄関に花を飾り、廊下には椅子が置かれて、利用者がくつろげるよう工夫されている。温度・湿度管理を職員が行い、事業所内のすみずみまで清掃が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテーブルを囲んで会話をしたり、居室で気の合う方と会話をしたりしている。また、居室でひとりで新聞や雑誌を見たり、書き物をしたりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時、ご家族に以前から使用していた生活用品の持ち込みをお願いしている。馴染んだ家具や置物、アルバムなどを身近に置くことにより、安心且つ心地よい暮らしが出来るよう支援している。	入居時に、慣れ親しんだ家財等を持ち込み、家族写真や誕生祝いのコメント色紙を飾り、その人らしい居室となっている。また、テレビを持参している方が多く、自室でくつろぎ好きな番組を鑑賞出来る部屋となっている。居室の清掃も行き届いており清潔感が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札を下げたり、トイレや浴室もわかりやすく表示し、混乱のないように努めている。また、安全に歩行できるように、多くの手すりが備わっている。		